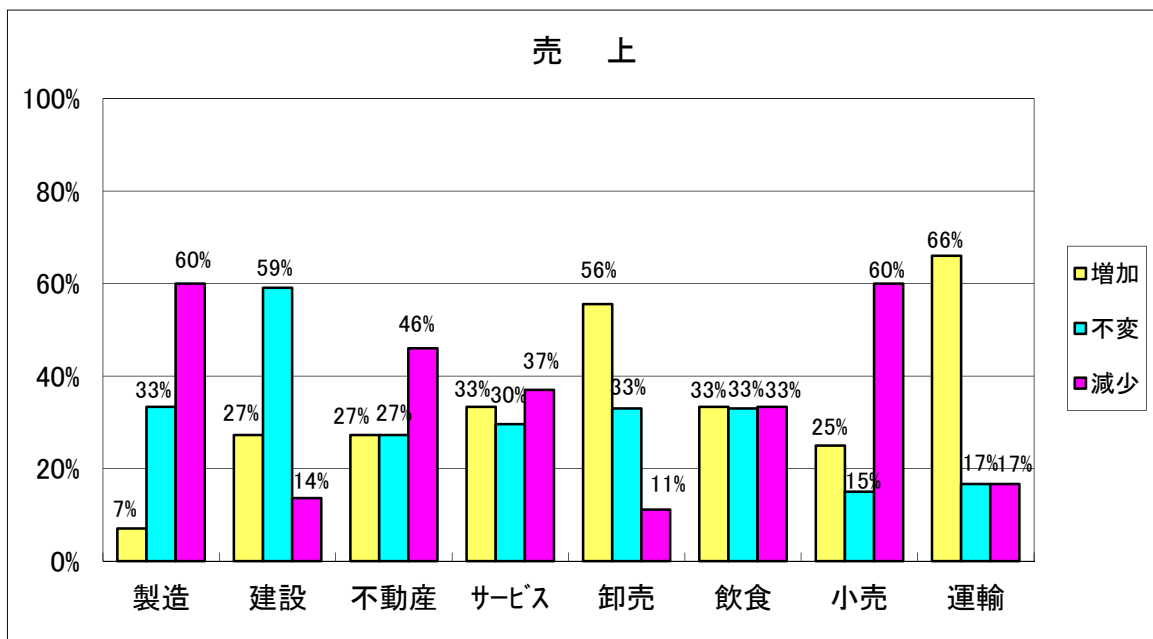


調査1 平成27年7月～12月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と平成28年上期の見通しについて比較表示してある。

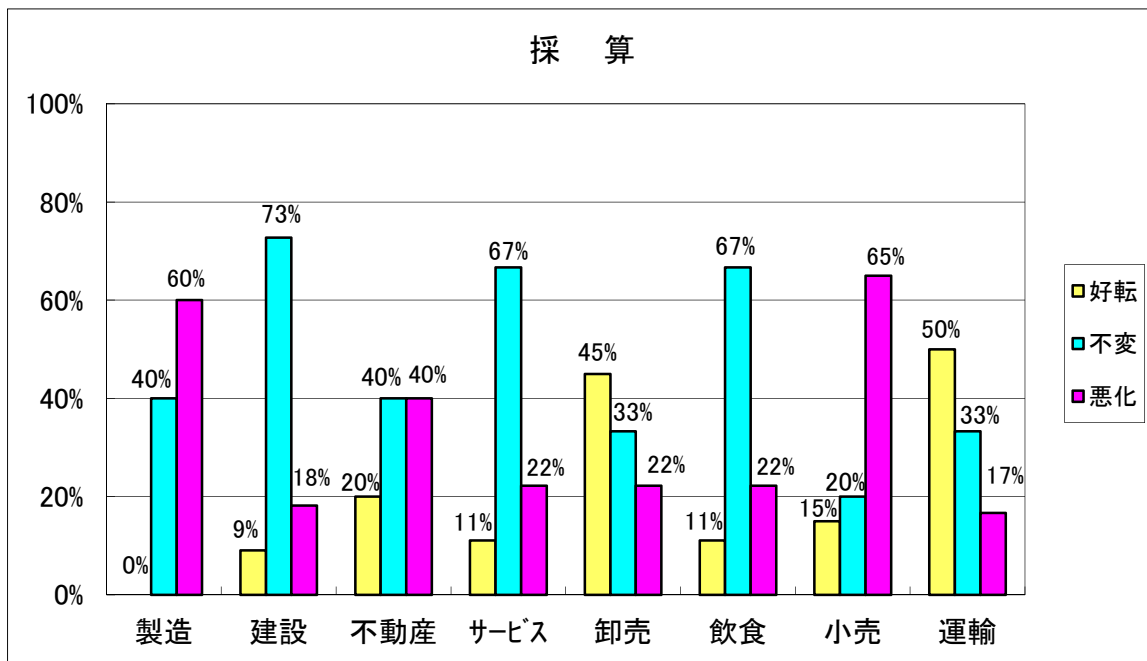
①売上について

全体的でみると昨年より「増加」が34%、「不変」が38%、「減少」は38%と依然として低迷している。その中で、売上「増加」が顕著なのが運輸業、卸売業で半年前の調査と同じ結果であった。一方、「減少」が大きいのが小売業(60%、前回調査は55%)、製造業(60%、前回調査は42%)で他の業種に比べると極端に悪化している。



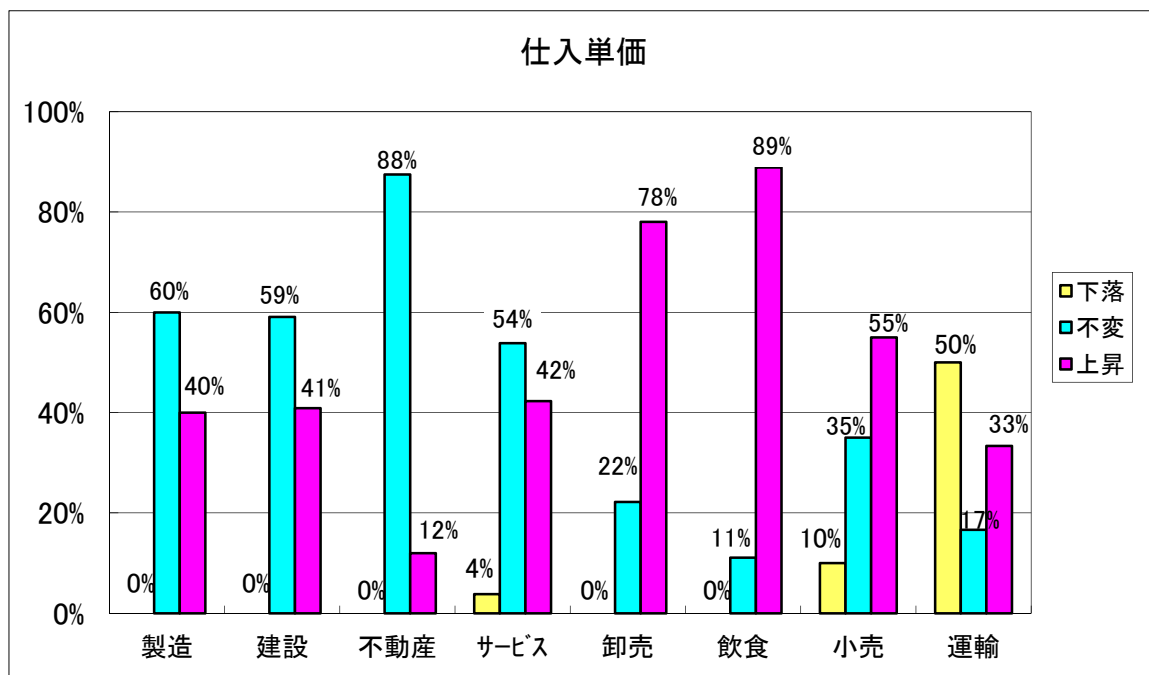
②採算について

全体でみると、「好転」20% (前回16%)、「不変」47% (前回48%)、「悪化」33% (前回36%)であった。業種でみると小売業(65%)、製造業(60%)と特に「悪化」しており厳しい状況である。一方、運輸業(50%)、卸売業(45%)が「好転」している。



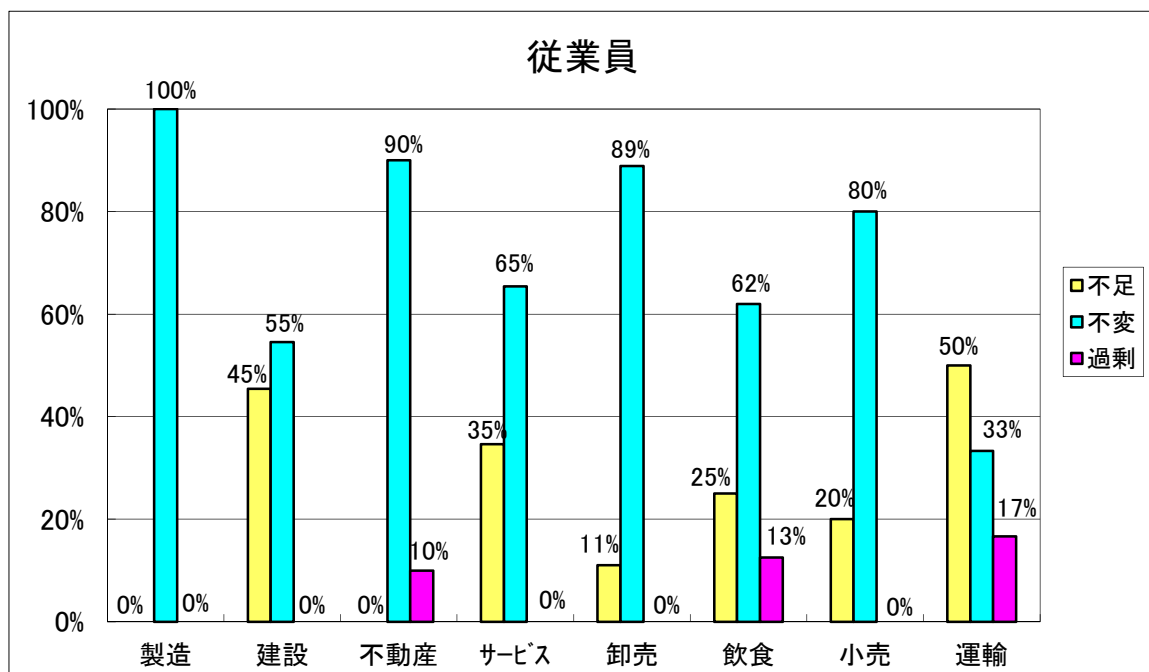
### ③仕入単価について

仕入単価が「上昇」したと回答が多かったのが、飲食業(89%)、卸売業(78%)、小売業(55%)で高い割合となっている。原油価格の下落で運輸業では「下落」が50%であった。

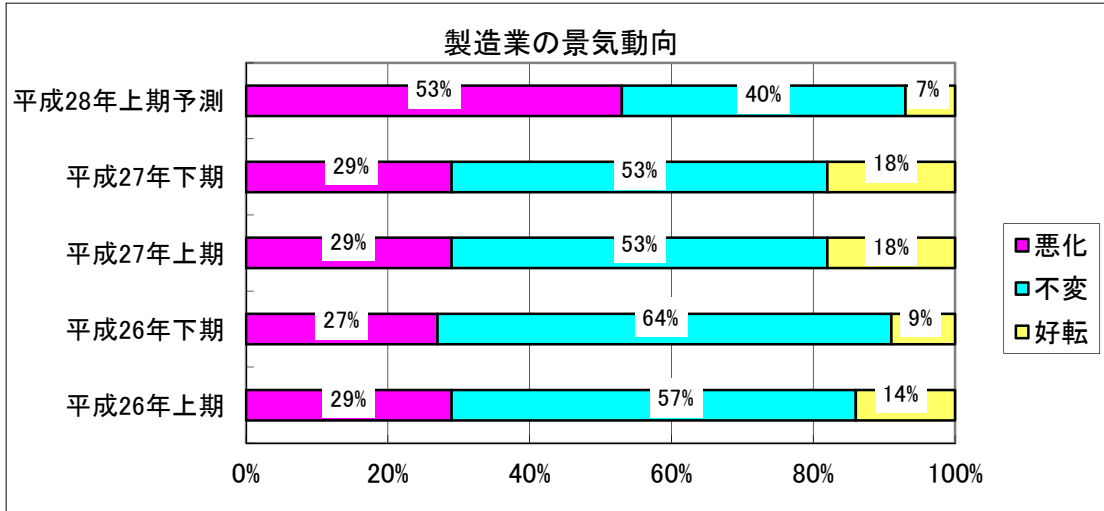


### ④従業員について

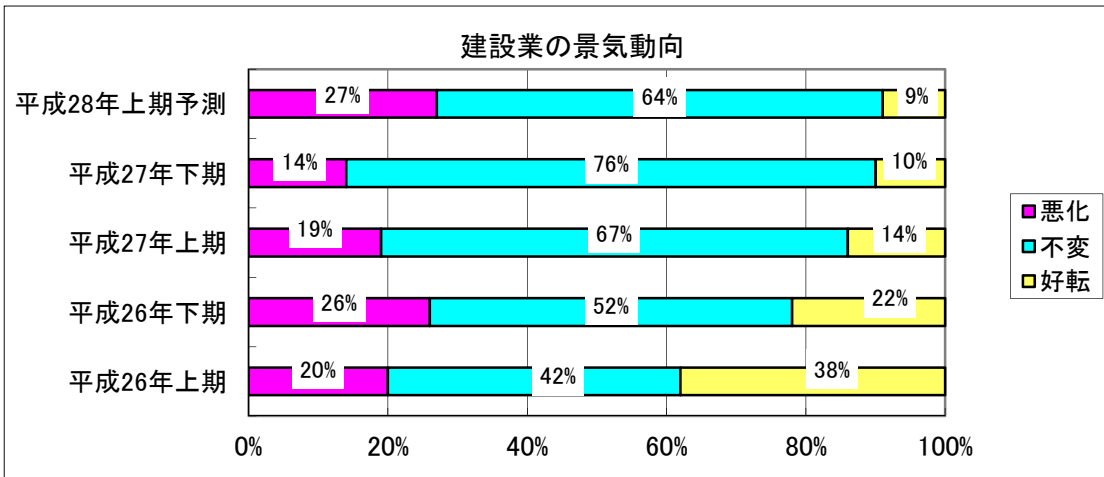
「不足」が顕著なのが運輸業(50%) 建築業(45%)で人出不足が深刻な状況である。



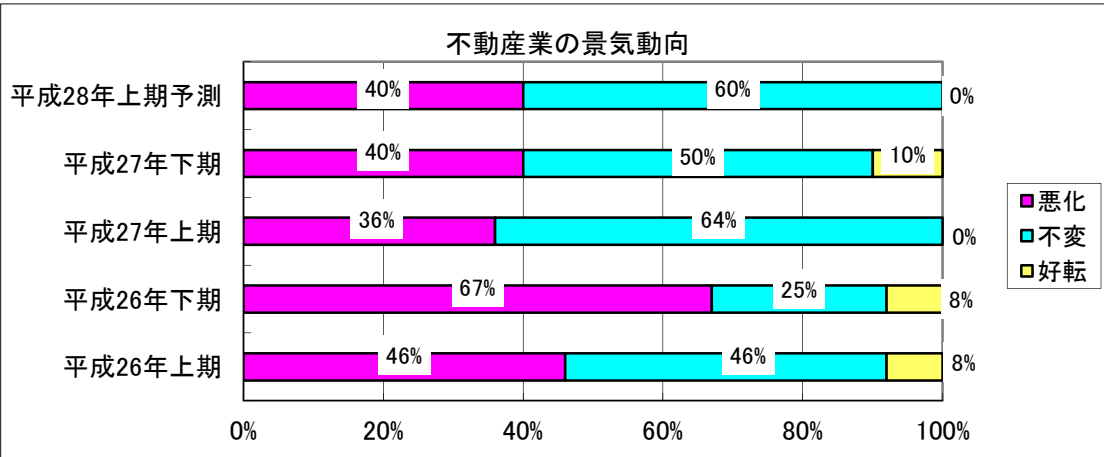
⑤業界の景気動向について



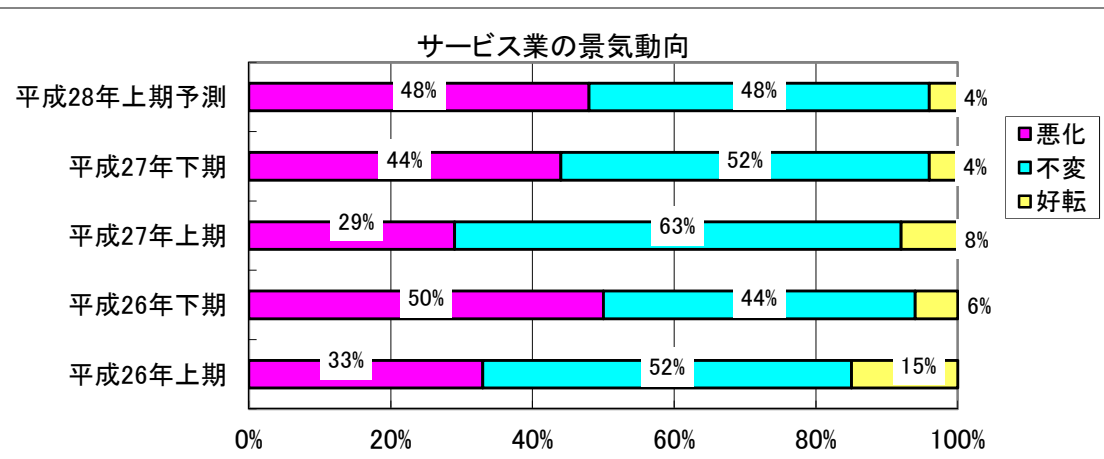
■製造業  
平成27年下期では、前回調査と同じ結果であるが、平成28年上期の見通しは「悪化」が58%と非常に厳しい見通しである。



■建設業  
平成27年下期は、「不変」が76%と前年より大きな動向はみられない。平成28年上期の見通しは「悪化」(27%)傾向が強くなってきている。



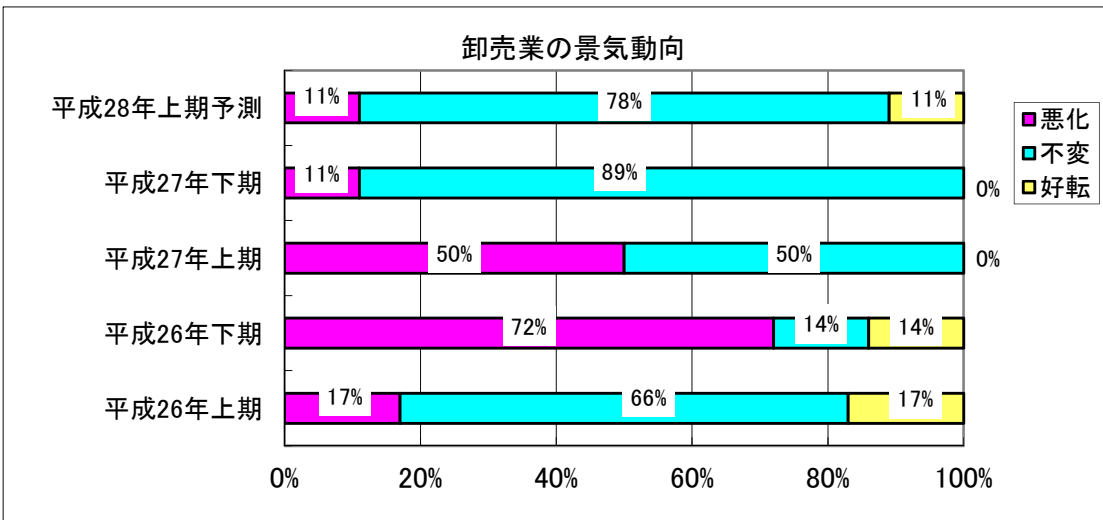
■不動産業  
平成27年下期は、「好転」が10%となっているものの、「悪化」が40%へと増加し全体的に停滞している。平成28年上期の見通しも「悪化」が40%と見通しは厳しい。



■サービス業  
平成27年下期では前回よりも「悪化」が44%と増加している。平成28年上期の予測は景気の「悪化」がさらに増加する見通しで厳しい状況である。

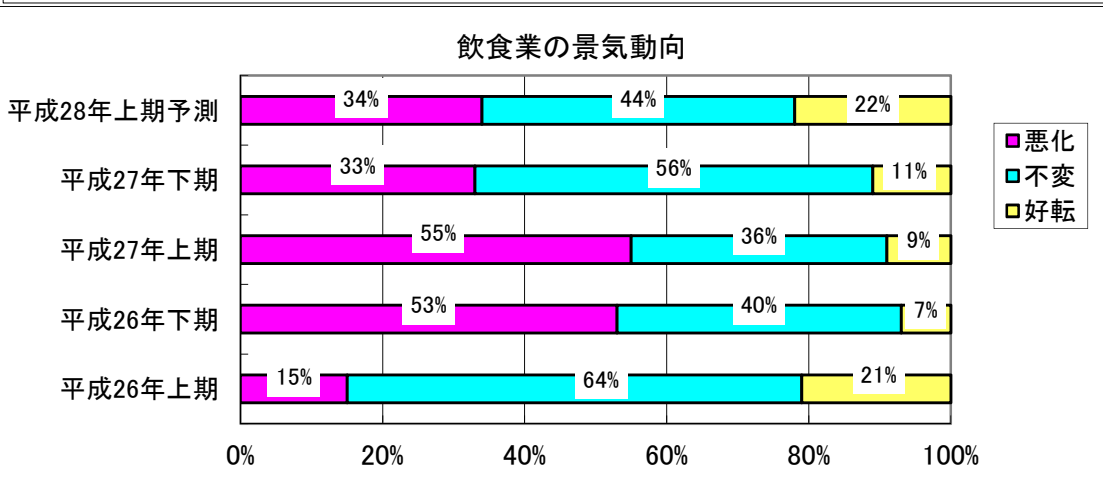
### ■卸売業

平成27年下期は「好転」がなく「不変」が89%である。売上や採算は好転がみられたが、円安の影響で景況感は良くない。平成28年上期予測では、「好転」が11%との見通しがあり若干回復の予測であった。



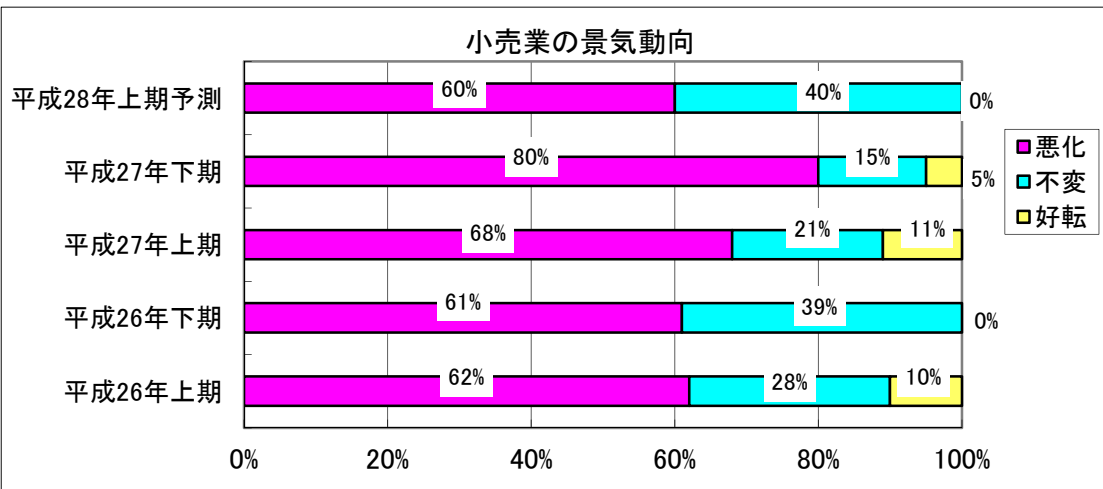
### ■飲食業

平成27年下期では「悪化」が33%、「好転」が11%で悪いながらも前回よりも若干回復傾向にある。平成28年上期予測は「好転」が22%増加の見込みとなっている。



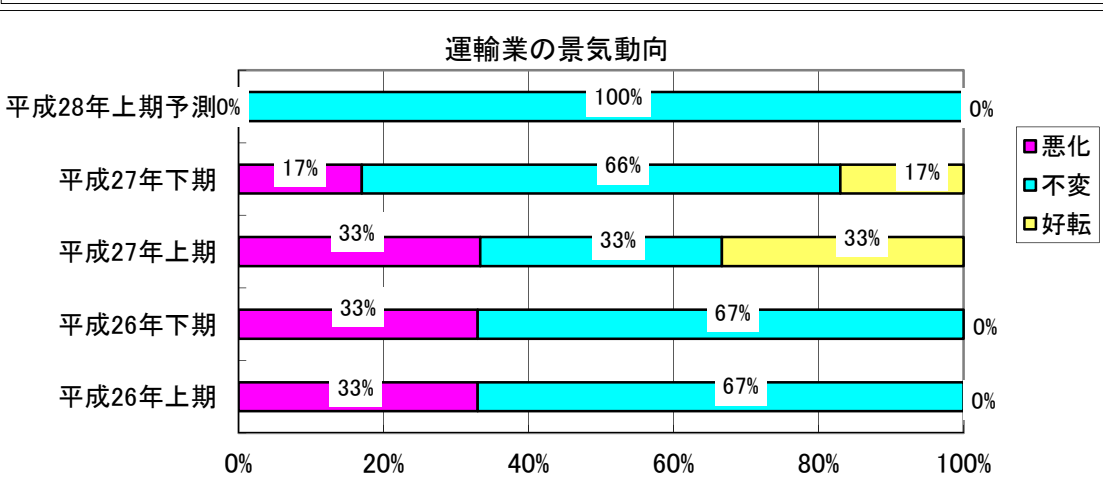
### ■小売業

平成27年下期は、「好転」が5%、「不変」が15%、「悪化」は80%とかなりの景気後退が感じられる。平成28年上期の見通しも厳しいものとなっている。



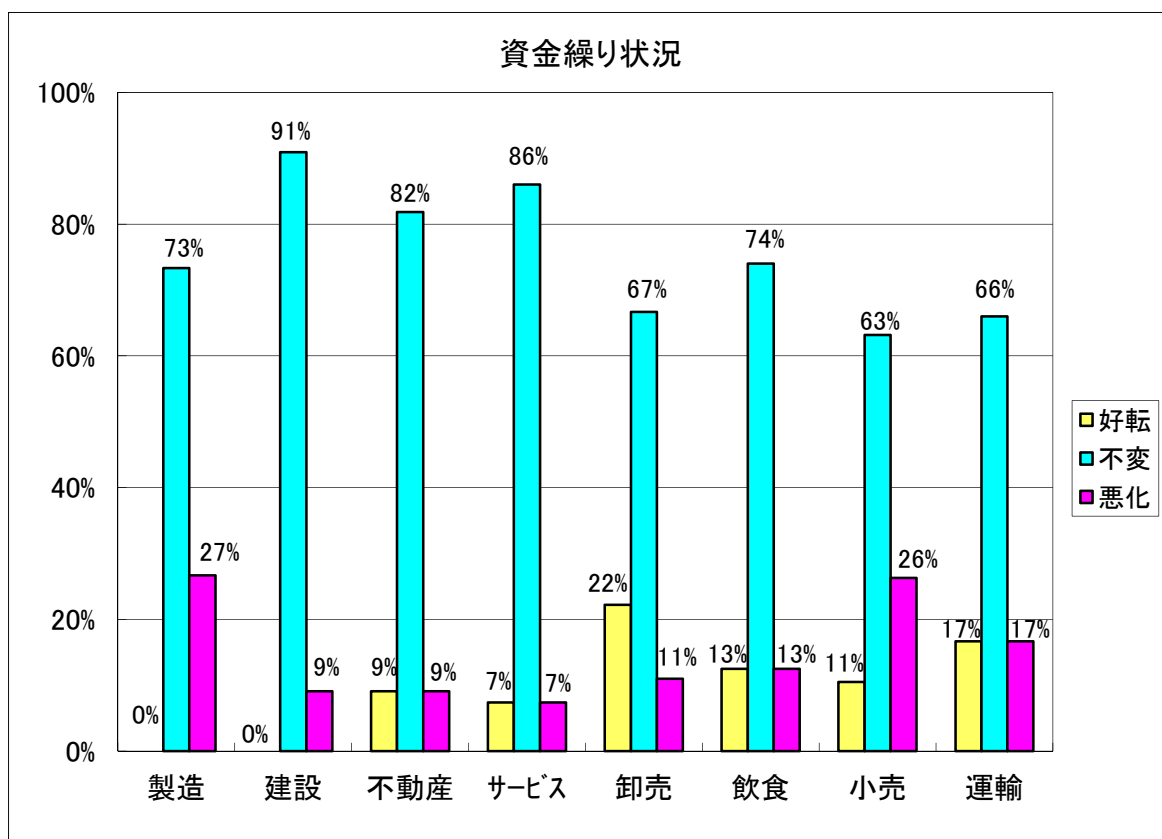
### ■運輸業

平成27年下期は、前回調査に比べ「好転」が17%、「不変」が66%、「悪化」17%と全体的には回復傾向がみられる。平成28年上期の見通しでは、大きな変化は見られない。



## ⑥資金繰りについて

全体で見ると「不変」が75%（前回75%）、「悪化」が15%（前回15%）、「好転」が10%（前回10%）と回答している。前回調査とあまり変わらないが、業種で見ると「悪化」が多いのが製造業、小売業であった。



## ⑦金融機関の融資状況について

全体的にみると「不変」が48%（前回50%）、「融資無し」が22%（前回20%）、「厳しい」が9%（前回9%）、「緩やか」が21%（前回21%）であった。融資状況については概ね変わりはない。

